

■コメント

1. 手足口病

定点当たり2.63人と、前週と比べて増加しました。
 手足口病は、治った後も、比較的長い期間便の中にウイルスが排泄されることがあります。また、感染しても発病はせず、ウイルスを排泄している場合もあるため、集団生活では特に注意が必要です。
 感染予防対策として、手洗いをしっかりとすること、排泄物を適切に処理すること、タオルの共有を避けることなどが大切です。

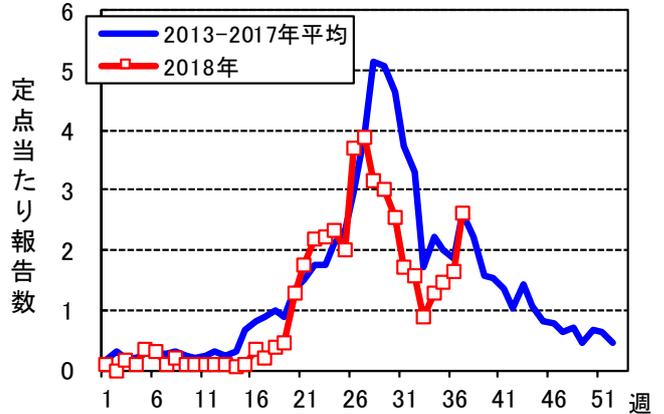
2. 後天性免疫不全症候群

1件の報告があり、今年の累計は8件となりました。

3. 梅毒

2件の報告があり、今年の累計は80件(男性51件、女性29件)となりました。

手足口病の流行状況



【参考】厚生労働省「手足口病に関するQ&A」
<https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekaku-kansenshou19/hfmd.html>

■定点把握感染症報告状況(週報対象)

定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均(注)	過去5年間	発生記号	定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均(注)	過去5年間	発生記号
フィレン	インフルエンザ	2	0.05	0.11			小児科	流行性耳下腺炎	7	0.29	0.62		
	咽頭結膜熱	6	0.25	0.45				RSウイルス感染症	32	1.33	1.93		
小児科	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	48	2.00	1.48			眼科	急性出血性結膜炎	-	-	-		
	感染性胃腸炎	128	5.33	4.23				流行性角結膜炎	13	1.63	1.35		
	水痘	8	0.33	0.43			基幹	細菌性髄膜炎	-	-	-		
	手足口病	63	2.63	2.61				無菌性髄膜炎	-	-	0.12		
	伝染性紅斑	2	0.08	0.14				マイコプラズマ肺炎	-	-	0.17		
	突発性発しん	13	0.54	0.33				クラミジア肺炎(オウム病を除く)	-	-	-		
	ヘルパンギーナ	17	0.71	0.52				感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-		

急増減	↑	↓	前週と比較しておおむね1:2以上の増減
増減	↗	↘	前週と比較しておおむね1:1.5~2の増減
微増減	↔	↔	前週と比較しておおむね1:1.1~1.5の増減
横ばい	→		ほとんど増減なし

報告数が少数の場合などは、発生記号を記載していません。

インフルエンザ定点数(小児科定点を含む)	37
小児科定点数	24
眼科定点数	8
基幹定点数	7

(注) 過去5年間の同時期平均(定点当たり)

■全数把握感染症報告状況

類型	疾患名	報告数	累計	備考
2	結核	3	96	男性(60歳代)・1人、男性(80歳代)・2人
4	E型肝炎	1	3	男性(50歳代)
4	レジオネラ症	1	28	男性(70歳代)
5	後天性免疫不全症候群	1	8	男性(30歳代)・感染者
5	侵襲性肺炎球菌感染症	1	10	男性(80歳代)
5	梅毒	2	80	女性(20歳代)、男性(40歳代)

■定点把握感染症報告状況(週報対象)の推移

報告数	広島市	週	インフルエンザ	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	RSウイルス感染症	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎	(ロタウイルス) 感染性胃腸炎	
			第33週	1	4	32	58	6	21	-	5	11	3	20	1	11	-	-	1	-	1
第34週	1	5	45	90	3	31	2	8	18	1	34	-	13	-	-	1	-	-	-	-	
第35週	-	10	46	111	7	35	2	16	16	4	48	1	18	-	-	1	-	-	-	1	
第36週	-	9	54	99	7	39	-	11	20	3	46	-	10	-	-	-	-	-	-	1	
第37週	2	6	48	128	8	63	2	13	17	7	32	-	13	-	-	-	-	-	-	-	
定点当たり	広島市	第33週	0.03	0.17	1.33	2.42	0.25	0.88	-	0.21	0.46	0.13	0.83	0.13	1.38	-	-	0.14	-	-	0.14
		第34週	0.03	0.21	1.88	3.75	0.13	1.29	0.08	0.33	0.75	0.04	1.42	-	1.63	-	-	0.14	-	-	-
		第35週	-	0.42	1.92	4.63	0.29	1.46	0.08	0.67	0.67	0.17	2.00	0.13	2.25	-	-	0.14	-	-	0.14
		第36週	-	0.38	2.25	4.13	0.29	1.63	-	0.46	0.83	0.13	1.92	-	1.25	-	-	-	-	-	0.14
		第37週	0.05	0.25	2.00	5.33	0.33	2.63	0.08	0.54	0.71	0.29	1.33	-	1.63	-	-	-	-	-	-
		全国	第35週	0.05	0.32	1.20	3.57	0.18	1.17	0.32	0.49	1.70	0.13	2.11	0.01	1.01	0.03	0.04	0.23	0.01	0.02
第36週	0.07	0.33	1.32	3.72	0.22	1.13	0.34	0.49	1.66	0.12	2.39	0.01	0.94	0.01	0.03	0.23	-	-	0.02		

* 百日咳は、2018年1月1日から5類感染症(全数把握疾患)に変更になりました。

■新たに判明した病原体検出状況

(検査: 広島市衛生研究所)

診断名	主症状	年齢	性別	発症年月日	検査材料	検出病原体
手足口病	発熱(39.1) 発疹	1	女	2018/07/10	咽頭拭い液	コクサッキーウイルスA6型
その他の消化器疾患	腹痛	1	男	2018/07/15	糞便	アデノウイルス2型
その他の疾患	発熱(39.0)	0	男	2018/07/26	咽頭拭い液 糞便	エコーウイルス11型

* 感染症発生動向調査に基づく病原体定点搬入分のみ掲載

★風しんに注意しましょう! ~先天性風しん症候群を防ぐために~

現在、首都圏を中心に風しん患者の報告数が大幅に増加しています。患者の多くは30代から50代の男性が占めており、この年代の男性においては、風しんの抗体価が低い方が2割程度存在していることが分かっています。広島市でも、今年はいまだに7件の風しん患者が報告されています。

妊娠初期の女性が風しんに感染すると、生まれてくる赤ちゃんが先天性風しん症候群を発症することがあるため、注意が必要です。

風しんはワクチン接種で予防可能な感染症です。しかし、妊娠中の女性は接種できません。また、現在妊娠の可能性のある女性も同様です。妊娠の可能性のある方は、まず妊娠しているかどうかを確認後、産婦人科の医師にご相談ください。妊婦への感染を防止するために、過去に風しんにかかったことがある、予防接種を受けたことがある又は風しんに対する抗体が陽性であると確認できている方以外の方は、予防接種を受けましょう。

なお、広島市では、妊娠を希望する女性、妊娠を希望する女性と同居している方、妊婦と同居している方に対して、無料の風しん抗体検査を実施しています。

【参考】

- ・首都圏における風疹急増に関する緊急情報(2018年)(国立感染症研究所)
<https://www.niid.go.jp/niid/ja/diseases/ha/rubella.html>
- ・風しんについて(厚生労働省)
https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekkaku-kansenshou/rubella/
- ・風しんに要注意!(健康推進課)
<http://www.city.hiroshima.lg.jp/www/contents/1338441470548/index.html>
- ・広島市では無料の風しん抗体検査を行っています。【先天性風しん症候群を防ぐために!】(健康推進課)
<http://www.city.hiroshima.lg.jp/www/contents/1395648504256/index.html>

本週報は、速報性を重視していますので、今後調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがあります。なお、感染症情報の詳細についてはホームページでご覧いただけます。

URL <http://www.city.hiroshima.lg.jp/eiken/center.html>

【問い合わせ先】

広島市感染症情報センター/広島市衛生研究所 〒733-8650 広島市西区商工センター四丁目1番2号
TEL (082) 277-6575 FAX (082) 277-5666 E-Mail ei-seikatsu@city.hiroshima.lg.jp

2018年第37週(9月10日~9月16日)